

### 第3回美祢市総合計画審議会 議事録

日時：令和元年5月10日（金）18：30～20：30

会場：美祢市民会館2階大会議室

	委員区分	団体名	氏名	出欠
1	1号委員 (市議会議員)	美祢市議会	エビスヤ 戒屋 アキヒコ 昭彦	
2		美祢市議会	タカギ 高木 ノリオ 法生	
3		美祢市議会	タケオカ 竹岡 マサハル 昌治	
4		美祢市議会	ナオノ 猶野 トモカズ 智和	
5	2号委員 (公募委員)	公募	イノウエ 井上 トシオ 敏雄	
6		公募	ウエヤマ 植山 マサオ 正雄	
7		公募	カジオカ 梶岡 ヒデオシ 秀吉	
8		公募	ニシダ 西田 サキコ 早紀子	
9	3号委員 (学識経験者)	国立大学法人山口大学	タナカ 田中 カズヒロ 和広	
10		成進高等学校	ノハラ 野原 マサノリ 政典	
11		山口県立美祢青嶺高等学校	フジムラ 藤村 シンイチロウ 慎一郎	欠席
12		山口県議会	モリナカ 森中 カツヒコ 克彦	欠席
13	4号委員 (関係団体)	山口県宇部県民局	イソムラ 磯村 ショウジ 昭二	欠席
14		山口県総合企画部中山間地域づくり推進課	イナガキ 稲垣 カイチ 嘉一	
15		一般社団法人 美祢青年会議所	ウチウミ 内海 ミツオ 満夫	
16		美祢市内郵便局	カトウ 加藤 ミチコ 美智子	欠席
17		美祢市教育委員会	カネコ 金子 アケミ 明美	
18		美祢市子ども・子育て会議	クラナガ 倉永 ケンゾウ 健造	欠席
19		美祢市男女共同参画審議会	コバヤシ 小林 ノリコ 法子	
20		美祢郡医師会	サカイ 坂井 ヒサノリ 久憲	欠席
21		西京銀行	スエオカ 末岡 タカオ 貴夫	欠席
22		カルスト森林組合	タカス 高須 シュウゾウ 修三	
23		美祢市商工会	ナイトウ 内藤 マサタ 正太	
24		連合山口美祢地区会議	ナガイ 永井 マサオ 政夫	欠席
25		美祢市定住促進協議会	ナガタニ 永谷 アオゾラ 青空	欠席
26		美祢市社会福祉協議会	ハネ 羽根 カズタカ 一孝	
27		美祢市医師会	ハラダ 原田 キクオ 菊夫	
28		山口銀行	ヒエダ 穂田 ユウジ 裕司	欠席
29	山口新聞	ヒライワ 平岩 カズヤ 和也	欠席	

	委員区分	団体名	氏名	出欠
30		美祢市体育協会	マセ クニオ 真瀬 邦夫	欠席
31		美祢市小中学校PTA連合会	マツダ タツノブ 松田 龍信	欠席
32		美祢市地域組織活動連絡協議会	ミシマ アケミ 三嶋 明美	
33		一般社団法人 美祢市観光協会	ミズタニ マサヤ 水谷 雅哉	
34		山口県農業協同組合美祢統括本部	ヤマモト ヨシツグ 山本 善継	

## <資料>

### 次第

『資料1』第二次美祢市総合計画 序論（素案）

『資料2』第二次美祢市総合計画 基本構想（素案）

『資料3』新しいまちの目標 将来像と基本理念について

## <その他資料>

委員名簿、配席表

## 1 開会

～資料の確認～

## 2 会長あいさつ

～田中会長ごあいさつ～

本日は夕方にもかかわらずお忙しい中第3回目の総合計画審議会にご参加いただきありがとうございます。復習ですが、総括審議を行っており、今日の資料に序論とございますが、第一次の後期基本計画の総括があり、そこについて審議いただいた。資料2の43ページから基本目標というものがあり、それぞれの目標骨子についてご説明いただいた。今回は、新しいまちの目標、この中には将来の目標や基本理念があり、その提案を受けて確定したいと思っているので、審議の程よろしくお願ひします。

理念や将来像はこれから10年間の市民の共通の価値観となる。忌憚のない意見をお願ひしたい。

事務局より：定足数の報告

会長：委員のみなさまの発言にあたっては挙手をして、名前を述べてからお願ひしたい。

## 3 議事

(1) 第二次美祢市総合計画の序論（案）について

事務局より：資料1について説明

田中会長：前回完全なものではなかったが、その際出された意見を反映し、修正等をしたものかと思う。

特に一番最後の課題等のまとめに関して、ここに集約されている。ここを見ながらまた、この前を振り返りながらご議論をお願いしたい。

課題等のまとめは大事かと思う、強みはさらに強く、弱みは解消できるように、機会はどのように考えれば良いか。

事務局：機会はチャンスとして活用する方向で捉えるものとしている。

田中会長：脅威とあるが、取り去らなければいけないという意味でピックアップされているのか。

事務局：脅威の中には美祢市が喫緊に取り組まなければならない課題が含まれているかと思えます。

田中会長：市民からの課題はアンケートの結果などから市民がどう見ているのかをまとめているということによろしいか。

事務局：その通りでございます。

井上委員：最後のページの課題等のまとめで、ここが一番大事なところだと思っているが、これが各戦略、基本構想に盛り込まれていると考えてよろしいか。

事務局：これについては、当然総括を新たな計画に反映していくのだが、基本構想は10年間の骨格となるので、このあとの基本計画や総合戦略、実施計画などの具体的な部分で掲載していくものとしている。

井上委員：基本計画に記載されるのであれば問題ないかと思う。市民が課題に思うことを解決していかなければならないので、載るのであれば問題ない。

田中会長：何らかの形で計画に盛り込んでいかなければならない。この中には優先順位もあると思う。

事務局：基本構想には揺らがない基本的な指針を盛り込み、具体的な対応は、重点的な施策を中心に盛り込み、予算レベルの取組は実施計画でお示ししていく。

西田委員：課題等のまとめを見て分かりやすいとは思いますが、どの意見が一番多いのかなど、解決しなければいけない順番などがわかりやすくなるとよいのでは。

田中会長：緊急度や優先度も整理されたらよろしいのではないかな。

稲垣委員：県の中山間地域推進課の観点から気になるところでいえば、地域コミュニティ組織の担い手が不足してきている。高齢化が特に進んできている。もともと多くの地域で40～50代の担い手の減少が進んでいる。行政の支えも全て手が届くことも難しいかと思うので、地域のコミュニティがどれだけ機能するかが重要かと思っている。

課題の中に担い手の課題やリーダーの高齢化に関する対策が見受けられないため、その考え方が反映された部分や別の部分での反映予定があればうかがいたい。

田中会長：基本構想のなかにどのようにしてコミュニティを組み立てていくか、といった提案はあろうかと思っているが、事務局の将来的な考えなどはどうか。

人口動態調査をやってみると、大田、秋吉、美祢に人は集まっているが、ほかは減っている。こういったところなどに人材を集める施策はあるのか。

事務局：現在の課題のまとめには確かに大きく触れていないが、重要性は認識しており、皆様の意見を受けながら追記していきたい。また、公民館単位のまちづくりに関する内容も盛り込む予定があり、モデル地区である赤郷を中心として、地区づくりを進めて行くこ

とが先ほどの内容に対応するところかと考えている。それについては強く推し進めていきたい。担い手づくりについては、赤郷夢プランを実行に移す中で担い手を育成していくという考えもあるし、現在配置している地域おこし協力隊がその役割を今後担っていくことも考えられる。さらに今後の重要施策として関係人口づくりも進めて行きたいと考えており、外部から積極的な若者の転入なども促していきたい。

水谷委員：美祢市が主役で美祢市が主語になる計画だと思うが、観光に関しては主語はお客様になる。いまさらではあるが、この図ではお客様が下になっている。本来はお客様のために観光があり、満足するとリピーターにつながってくるので、他の施策と主語がちがってくる。17ページの観光立市をけん引するということところにも、お客様に満足してもらおう、認めてもらうという部分が抜け落ちているように感じた。

事務局：ごもっともなご意見で、加筆修正をしていきたい。

金子委員：14ページの人の育成について前回と比較しながら見させていただいたが、新学習要領の改革にともない、また市の実態にともなって前回よりさらに進んで考えていただいていると感じた。

田中会長：教育は非常に重要な分野であり、山口大学では美祢市からは今年は入学が1人だった。小中高の教育もどうするのかを検討していく必要があるかと思う。

小林副会長：現在100名も生まれていない状況で、小中学校の統廃合進んでいるが、小中一貫教育などを視野に入れた計画が必要ではないかと思う。24ページに一貫した個性豊かな育ちや学びについて書いてある大きなテーマとしてジオパーク活動があるが、この部分は人の育成の中に入ってくるのではないか。

田中会長：郷土愛を育むのも一つの教育ではないかと思う。小中学校一貫の制度を取っているまちもあると聞いている。そのあたりも検討して頂ければと思う。

植山委員：39ページの諸課題のまとめのなかで、脅威という項目があり、ここが重要であり、消滅集落につながってくるという危機感があるため、力を入れなければならないことになると、前回も取り上げたが選択と集中という観点からやっていけなければならない。過疎法が切れてしまうが、中央からお金ををひっぱってくるのかというビジョンを描いていただきたい。その辺りをどう捉えられているのか意見を聞きたいし、動きそのものが美祢市の活性化に繋がると感じている。

田中会長：特に重要な物について、選択と集中をしていくことは重要かと思う。

事務局：社会潮流の中にも、少子高齢化、人口減少社会への対応で国の新しい経済政策パッケージで人づくり革命、幼児教育・保育の無償化、若者子育て改革など地方で充実させていこうというのが柱となっている。また仕事を地方で作っていこうということも柱となっているほか、情報通信分野の改革を国が推し進めることとなっている。そうした観点から、過疎法も延長の動きに繋がっていくと考えているし、過疎の克服＝地方創生と考えているので、過疎法の活用についても、仕事づくりや少子高齢化対策に積極的に活用されるものと考えている。

竹岡副会長：39ページ、SWOT分析は課題のまとめという解釈はしていない。強みなら何がその中での課題があるかを見ていくものと認識している。

事務局：実際の課題のまとめは9ページからの総括が課題のまとめとさせていただいている。項目が多いことや追加してアンケート調査があることから、端的に分かる形としてSWOT分析を使わせていただいているが、強み、弱み、市民等から見る課題が内部認識、機会、脅威については外部環境の認識として整理させていただいている。

竹岡副会長：SWOT分析は分析手法のひとつであり、あくまでも課題を見つけるための手法であって、この表題が課題のまとめとなっているが、整理の仕方が違うのではないかと

考える。

田中会長：強みは課題ではないので、それぞれの課題がある。ここで出たキーワードを拾って文章化するのだと思うので、整理をしていただければと思う。「まとめ」ではいいが、課題というのはいらないのでは。

梶岡会員：39ページについて、SWOT分析した内容は第1段階であって、この後にどのようにするべきか考えていく必要がある、これに関して違うマトリックスで整理し直した方がよい。

田中会長：さまざま意見ありましたが、修正すべきところは修正して、これ自体は確定でよろしいか。

～承認～

## (2) 第二次美祢市総合計画の基本構想(案)について

事務局より：資料2、3について説明

田中会長：基本構想の上に、将来像、基本理念について新たにご提案いただいている。

内海委員：基本目標というのは良いと思うのだがSDGsの世界目標を落とし込むことで分かりやすくもなるのではないかと思う。将来像は美祢市だけが持つ新たな価値を創造していくことでぼやけていても良いと思うが、基本理念については、漠然とぼやけた表現ではなく、本文内ではっきりと記載した方が良いと思う。

事務局：SDGsに関しては、総合戦略の中で記載していく。

田中会長：まさに美祢市はSDGsであり、持続可能性が問われている。どうすればこの町を持続できるのかが問われている。そういった考え方は含むべきで、何をやっていったらよいのか17の目標から見えてくるものもあるのでは。

戎屋委員：前回では将来像を説明する中で、人口減少に歯止めをかけと変更した理由はなんであろうか。

事務局：前回よりも強いニュアンスにしているが、国や県に方針に沿いながら策定するにあたって1ページにまとめている。その中で、この総合戦略のポイントがわかりやすくなるよう変更させていただいた。

戎屋委員：国全体で人口が減っており、歯止めをかけということは非常に強い言葉であるので、SWOT分析の内容を生かして対策を打たなければいけない。

田中会長：人口の減少に歯止めをかけて、持続可能なまちを考えていこうという中で、この将来像、基本理念がピンとこない。これを実現させることで、人口減少に歯止めがかかることができるのか。なにがターゲットで市が今後10年間何を考えていこうとしているのかがわかりにくい。

これまで同じことをしてはダメだと認識しているが、いままでと違う新しいことがわからない。新しいことはどんなことなのかライトアップされているべき、大胆なことをやっていこう、次の10年に向けてこんなことをやっていこうという部分があるようになっていこうというほうがよいのではないか。ここに書いてあることは今もやっている同じことではないか。

事務局：歯止めをかけるのと表記は誤解を受けるものでもあろうかと思う。前回の審議の中でも、人口ビジョンに対してもっと夢のある目標をという意見もありましたので、全く人

口が減らないという意味ではないので多少修正を掛けさせていただきたい。今回の計画は10年間であり、その中で人口減少をどうゆるやかに抑え込むのかということが一番の根幹となる。その根幹の解消として将来像と基本理念を示させていただいた。美祢市が生き延びていく中で、強みをピックアップし、弱み、機会、脅威、を整理しその中にもそれぞれが抱える諸課題を克服していく。まずは観光、産業、若者が住む町、市民が総力を挙げてつくる地域づくりが中心になってくる。その言葉を総称して、みんなで魅力を作り、創造し、磨いていこうという言葉を大地という言葉ベースに示したものである。

内藤委員：基本構想は商工業の指針になるようなものであってほしいと思ったし、市民に商工業の魅力が足りないと言われる理由となろうかと思う。今後この目標指針、基本理念の中から、立ち返ってみたいと思う。

稲垣委員：43ページの基本目標1のところ、3段落目の表現で定住移住してきた方を含めてだれもが暮らしやすいということか。45ページで地域の担い手の育成と書いているが、芸術、歴史、文化、スポーツ活動などに市民の方が触れられるように担い手を育てるということか。

事務局：43ページでは、定住移住促進の部分は、住んでいる私たち自身が、誰もが快適に暮らす街をつくらないと定住にも繋がらないし誇りにも思えないという観点から記載をしている。45ページについては、若干文章の作り方が誤解を招くようなので、変更したい。意味としては、今後の地域活動、文化、イベントなど若者が活躍まちをつくりたいものであるので、区分できるようにしたい。

稲垣委員：地域活動や集落機能の担い手を育てていくとなると、地域を引っ張る強いリーダーの育成という観点と、市民みんなで磨いていくなどともあったので、地域をひっぱっていくリーダーを育てたいのか、皆が担い手としてなっていきたいのかの想いをいれていただければ良いかと思う。

原田委員：将来像、基本目標が響かない。地域包括ケアシステムでも美祢は人がいないので、今まで関わっていなかったボランティアなどの力を借りるしかないが、現状がそうだから自分たちががんばらないといけないと思えない。それで本当にやっていけるのか。高齢者の富裕層はこのままでは美祢を見捨ててしまう。お金のある中高年の人たちも、将来的に美祢に住まないと言っている人たちもいる。まちがつぶれてしまう。しかし、まだ美祢を愛して、知識があつて、経済的基盤がある人たちもたくさんいる。その人達の力を借りれるような刺さるような、わかりやすい美祢のキャッチフレーズを考えてほしい。わかりやすく、危機感があつて、みんなががんばろうと思えるようなものでないと意味をなさないのではないか。

三嶋委員：素朴な疑問だが、学童保育をしている中で、小学校から中学校も少ないが、クラブ活動が少ないので、よその中学へ行くことが許されている、於福中学校からこの度3人が行ったのだが、人数は減るので、行った方は楽しいが、残った方はさみしい。これから統合などされるが、将来どのように変わってくるのか。

田中会長：統合する考え方もあれば、地域に残すという考え方もあろうかと思う。

事務局：小中学校の規模適正化を見直すとしており、それぞれの地域の実情に応じた見直しは図られるものと考えている。市全体としては教育環境の充実として、ふるさと学習、コミュニティスクール、ジオ学習の推進、グローバル人材の育成を踏まえた英語学習の推進やICT教育の充実を推し進める。

田中会長：非常に重要なポイントかと思う。美祢市は広いので。教育だけでなく、医療、ショッピング、交通、全てがそこに集約するように、市の構造をどう作っていくのが最終的には問われてくるものかと思う。アンケートには如実に表れている。10年なので、

また変わってくるかもしれない。美祿市は世帯そのものがなくなってきている。すごく大きい問題である。この広い市をどのようにまちづくりしていくのかはいろんな分野で関係してくるように思う。

キャッチフレーズをブラッシュアップするのにキーワードなどあれば出していただければ。

植山委員：まちづくりについて思うことは美祿市全体の人口が減ってきており、歯止めをかけるということであれば、人口を支えるために産業や住まいなどがある。絡めて維持していくためにはこれまでとは変わった方向でやらなければ行き詰る。そのためには地域のリーダーをいかに確保して、その地域をどうして活性化していくかということが全ての源泉になるのではないかと思う。そこに力を入れてピックアップしていくかが重要。農業をやっている、担い手の確保は非常に重要な問題。法人の代表も平均が64歳など。数年後は大変なことになってくる。最終的には大変厳しい状況になる。

竹岡委員：44ページの強みを生かした産業の進行では、遊休地があることなども強みに入っているだろうが、豊かな水資源は何を指しているか。十文字には水がない。どういう組み立てがしてあるのか。

商工業では地域ブランドの振興と書いてある、特に1次産業、6次産業が明記してあるが、市場が閉鎖した、商店がなくなったという話が出ている。地元商業の構成割合はどのようなになっているか。その辺りの現状把握が出来た上での記述なのか。

事務局：商業の構成割合について、具体的な数値を持ってきていないので、次回お示ししたい。最初の豊かな水資源は特に秋芳地域の湧水がこれにあたる。

田中会長：カルストなので、地下水系は複雑で、水資源と言ってもピンとこない。弁天池も決して豊富とは思えないが、活用しようという意味ならば別かもしれない。産業振興についても新しい産業の創生という中で、背景として4次産業やソサエティ5.0など新しい世の中の潮流があり、情報産業を地方に分散させている。地方に仕事をつくらうと国は言い始めている。その中で、強みを生かした産業の振興について美祿はふさわしい場所だと思う。そういった世の中の背景を反映させると良いのかと思う。

目標が立てられたので、これに対して細かい計画が立てられる、漏れが内容にご意見を出して頂ければと思います。

将来像、基本理念についてもご意見ないか。

田中会長：大まかにはいいのだが、わかりやすく、メリハリをつけてほしい。

事務局：人口減少社会の克服と持続可能なまちづくりをコンセプトにつくっているが、もう少し、わかりやすくコンパクトで危機感がある内容で直させていただく。今回は方向性だけでもご承認いただければと思う。

田中会長：全体の方向性はこれでよろしいか、わかりやすく、具体的に、インパクトのある表現でお願いしたい。

～承認（方向性）～

## 4 閉会